

# 育児介護と仕事の両立の ための配転実態調査報告

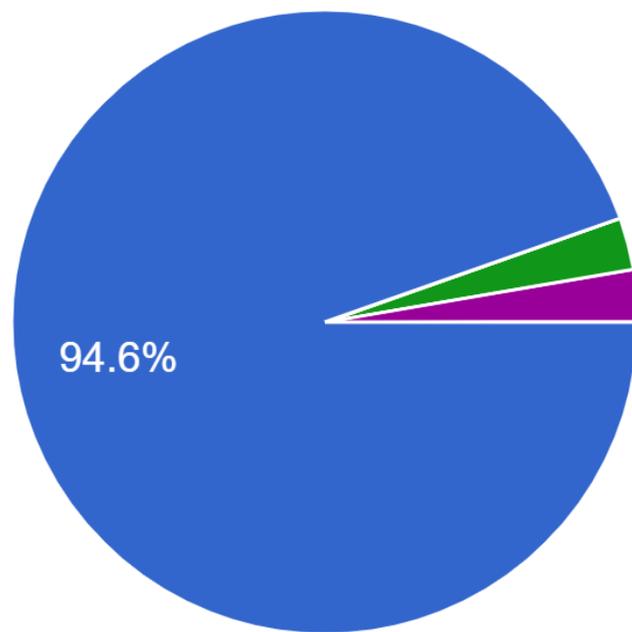
日本労働弁護団

# アンケート概要

- アンケート実施期間  
2023年8月4日～2023年10月17日
- アンケート方法  
インターネットによる収集
- アンケート総数  
37件

# 1 勤務形態を教えてください（正社員、有期雇用など）

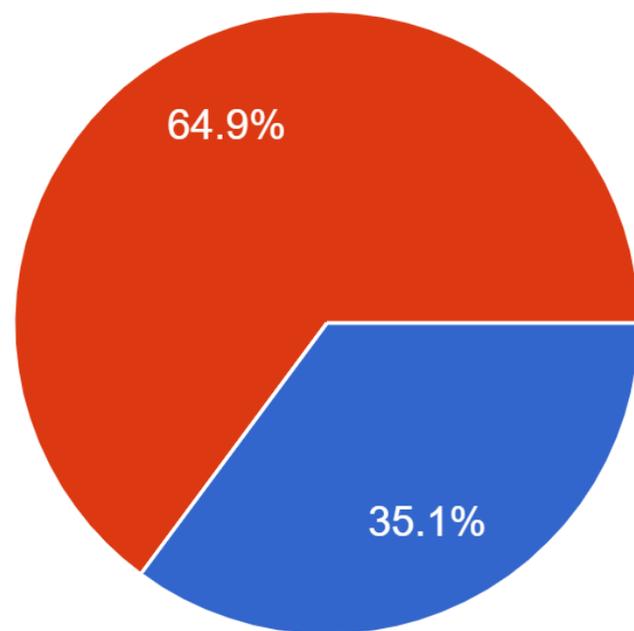
37 件の回答



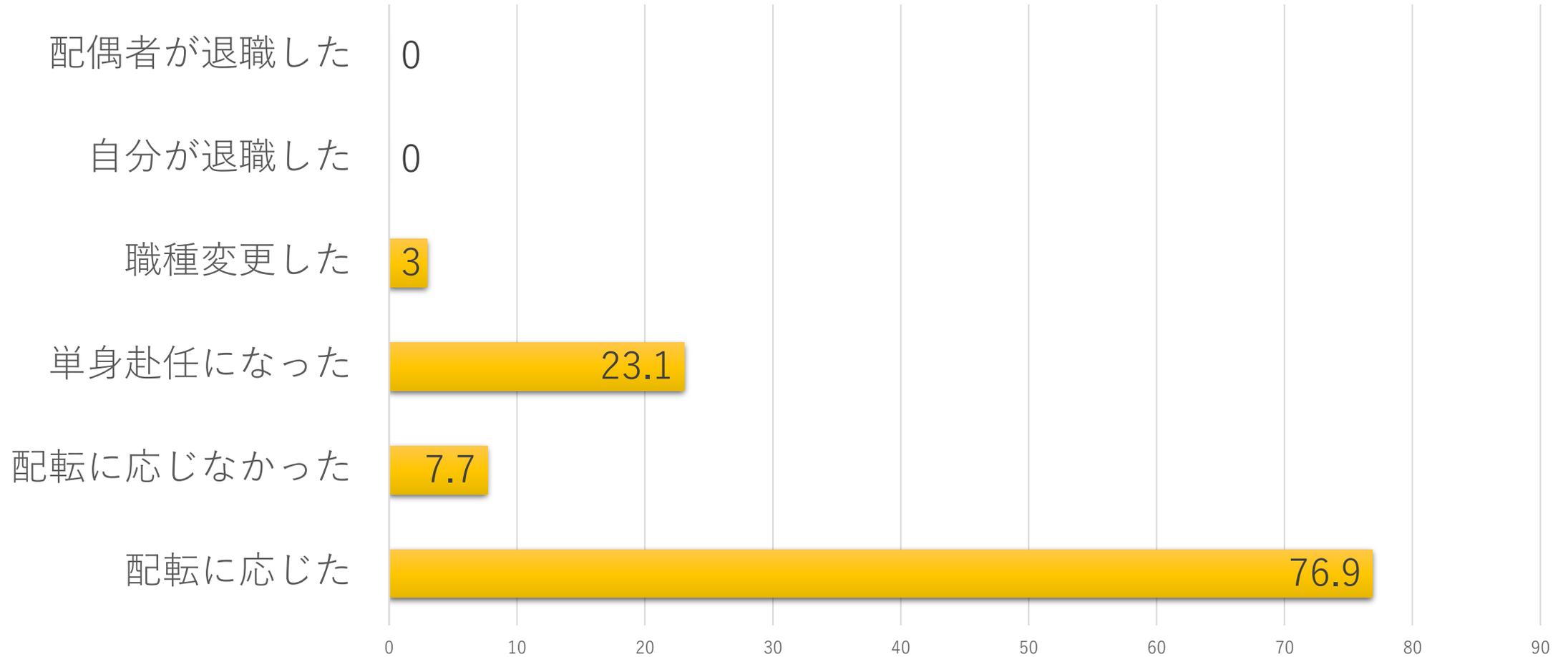
- 正社員
- 勤務地限定正社員
- 有期雇用
- パート
- 無期雇用派遣

## 2 あなたの性別を教えてください。

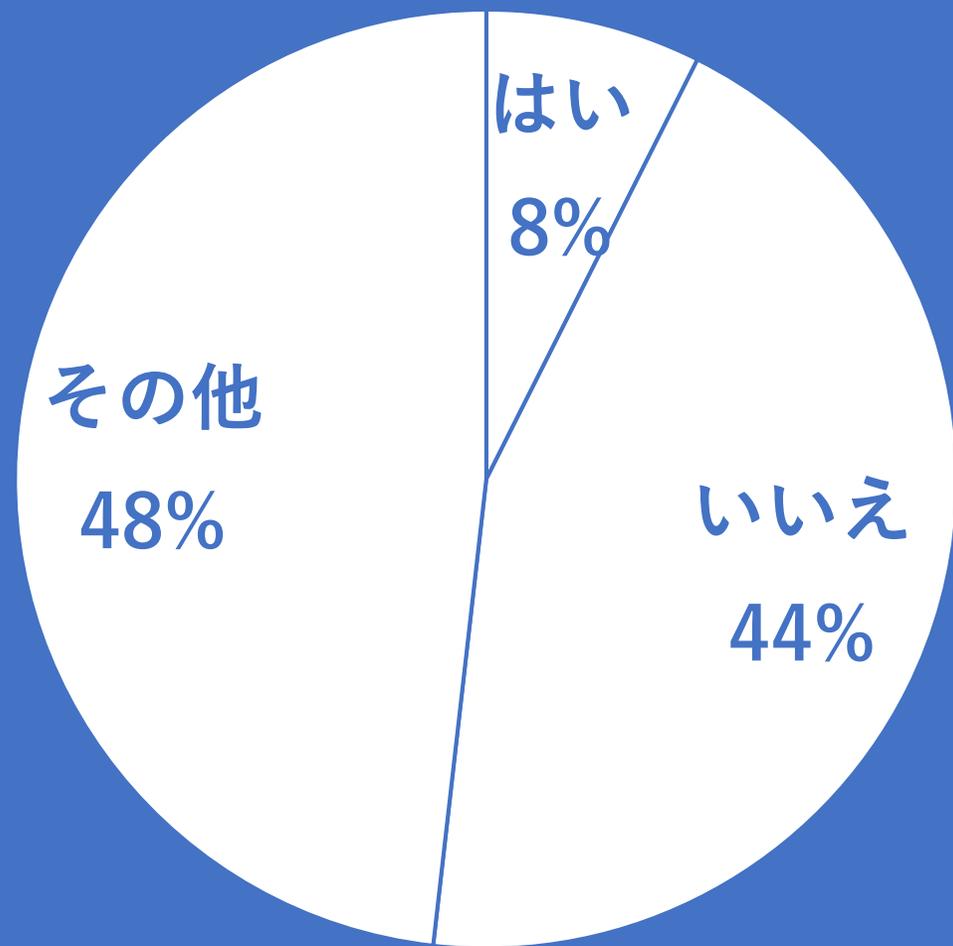
37 件の回答



# 配転命令を受けて、どうしましたか（複数回答可）



配転命令にあたり、勤務先から育児介護についての配慮はありましたか。



「その他」…

- 配転命令を受けていない
- 育児介護をしていない
- 配転命令以外の配慮（業務や労働時間、金銭面の配慮）を受けた等

あなたや家族が配転命令をうけ、育児介護に影響を受けたことがあれば、その影響とそのときのお気持ちを教えてください。

- 受け入れ難い。
- 子どものときに、父親が複数回遠方への転勤命令を受けた。経済的に大きな負担を強いられ、家庭環境が悪化した。祖父母の介護は、両親の兄弟に任せるしかなく、親族関係まで悪化した。
- 自分の経歴や希望を無視して、劣悪な職場に配属され、体調をくずりたり精神的に不調をきたした。

- 通勤時間が倍増し、朝夕の子どもの送迎をすべて配偶者に頼まざるを得なくなり、申し訳なく思った。
- 配偶者が遠方に転勤になり単身赴任となったため、子どももいる中でやっていけるのか不安だった。
- 通勤距離がのび、残業が増え、家庭の時間が少なくなった。
- 父親が転勤・単身赴任になったため、祖父母の介護について母親の負担が増えた。

- 会社から月一の帰省費用しか与えられないため、高校生、中学生の思春期の娘たちとふれあう時間が減った。これからもこの状態が続き、配偶者に教育を任せきりになることが心配の種になっている。
- 子どもの受験勉強期間に単身赴任をしており、そばで協力できなかった。配偶者も働いているのに、ひとりで子どもの対応をして苦勞していた。家族がバラバラになった。
- 自分の親の介護ができず、つらかった。
- 親が高齢であり、遠方に転勤することに不安がある。

- 配偶者の妊娠中に配転命令を受けた。会社には事情を説明したが、上が決めたことだからと取り合ってもらえず、出産後育休を1ヶ月取得した後転勤した。会社に憤りを感じていた。
- 子育てについて実家の援助を受けるために実家の近くに居住していたのに、遠方に転勤命令を受けた。家族の支援を受けにくい土地で無事に育児ができるか非常に不安を感じる。
- 配偶者が退職するか自身が退職になる、もしくは離れざるを得ない。配転の話で人生が崩れる感覚になった。会社に人生を握られる時代ではないのに、会社は変わろうとしていない。
- 配置転換しないならクビと言われて仕方なく応じた。